

令和5年度 山形県立山形西高等学校 学校評価書（自己評価・学校関係者評価）

【評価基準】 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

| 重点目標  |   | 具体的目標、評価指標   | 自己評価 | 今年度の成果と課題  | 次年度への改善点   | 学校関係者評価 | 学校関係者の意見・要望  |
|---|---|--|------|--|--|---------|--|
| 1 地域に開かれた、信頼される学校づくりに努める。                       |   |  |      |  |  |         |  |
| (1)   | 学校の取り組みや生徒の活動を広く発信する。   | ・HPを積極的に更新し、生徒の校内外の諸活動を広く地域に発信する。<br>・オープンスクールは内容を中学生に周知し、例年並みの参加者が集まるように工夫する。<br>・PTA活動や各種活動の出席率を70%以上にする。            | B    | ・年次、各課、各部の協力のもと、タイムリーな情報発信ができた。<br>・実行委員会が存分に力を発揮し、中学生・保護者に西高のイメージをより具体的に伝えることができ、例年並みの参加状況であった。<br>・PTA総会49%、県高P連研修会57%、あいさつ交通安全指導66%の出席率であった。                                  | ・HP等での情報発信を継続するとともに、HPのリニューアルも検討する。<br>・オープンスクールでは、生徒実行委員を運営の中心とし、学習面・進路先の説明を充実させ、西高の魅力をより伝えられるよう改善する。<br>・保護者の参加しやすい日時を検討し、PTA総会はオンライン総会も含め出席率向上を図る。            | A       | ・令和6年度の目指す中に、未来を意識し外の世界に積極的に関わる「未来創造精神」が掲げられた。今後の女性活躍社会では「突破力」「前に踏み出す力」が必要であり、喫鳴精神とともに西高の精神として定着してほしい。 |
| (2)   | 高等教育機関や地域社会等と連携・協働した学びを展開する。  | ・東北芸術工科大学及び山形大学との連携協定を活用し、探究的な学びを実施する。<br>・台湾海外研修旅行を企画し、1,2年生生で参加者を募集する。   |      | ・連携協定を活用した生徒・職員向けのワークショップや発表会での助言等、生徒の探究活動に最大限の協力を得た。<br>・台湾研修旅行参加生徒が61名となり、グローバルな視野を広げる研修となった。  | ・連携協定の更なる活用、スムーズな連携や調整のあり方について、連携大学と共通理解を図る。<br>・海外研修旅行の実施にあたり、校内における体制づくりを検討する。   |         | ・生徒の活躍をHP等で周知するだけでなく、学校としての取組みや考えなども積極的に保護者に伝えてほしい。  |
| (3)   | 生徒・保護者等及び学校評議員等による適切な評価等を基に、学校の取り組みについて積極的に検証と改善を図り、新しい時代に対応した学校づくりに努める。              | ・新学習指導要領に基づいた育成したい生徒像を明確にし、学校全体で指導にあたる。<br>・年2回学校評議員会を開催する。  |      | ・生徒の授業評価アンケートの結果内容を授業に活かすことができた。<br>・6月と2月の学校評議員会では、授業参観も組み込み、具体的に建設的な意見を聴取できた。  | ・新課程入試対応のための方策やシステムを十分に検討し改善を図る。<br>・スクール・ミッション、スクール・ポリシーを基に、具体的な学習到達目標とその方法を具体化する。<br>・学校委員会における意見を教職員全体で情報共有を行い、校務運営の改善に活かす。                                   |         | ・オープンスクールは、美しい規律の中にも活力和コウモアがあり非常に高い評価を得ている。今後も、山形西高校の「勤勉」「美しい規律」といった無形の財産を守り続けてほしい。                    |
| 2 授業改善と確かな学力の育成に努め、本校教育の質的向上を図る。                |   |  |      |  |  |         |  |
| (1)   | 本校教育の基本は質の高い授業の実践である。あらゆる機会を捉えて授業改善と教材の精選に努め、確かな学力を育成する。                              | ・年間を通じ、学習評価を念頭に、主体的・対話的な授業の実践に努める。<br>・山形大学大学院教育実践研究科の協力を得て授業改善に向けた校内研修会を実施する。   | B    | ・授業参観WEEKとリンクさせながら、外部講師を迎えて職員研修会を実施し、授業改善に向けた様々な情報を職員間で共有できた。  | ・今後ますます必要となる基本的な学力の定着を重視した指導を学校全体として取り組む。<br>・今後も、普段の授業を振り返り、授業のあり方を考え、教員同士で情報交換できる研修会を実施する。   | A       | ・授業参観でICT機器の活用した学びが急速に進んだことを実感した。先生方も新たな学びに対応した様々な研修をされており感謝したい。                                       |
| (2)   | 教科会を通して本校の教科指導のあり方を実践的に研究する。  | ・授業におけるICT等の活用を進め、効果的・効率的な授業の実践に努める。<br>・教科会において、実践内容を共有し全体で指導にあたる体制を目指す。  |      | ・ICT推進拠点校として充実した研修が実施できた。様々な教科での使用状況や実践事例を共有できた。   | ・今後のICTの活用法について教科会等を活用しながら、様々な場面で情報共有を図る。<br>・オンラインでの効果的な授業配信について、今後も検討を継続する。  |         | ・今年度より同窓会のホームページが開設された。卒業生は、様々な分野で活躍しており、その様子もホームページで紹介している。現役の生徒にも、キャリア教育の一つとしてOGの活躍の様子を知ってもらいたい。     |
| (3)   | 本や新聞に親しむことを通して、幅の広い学力教養と豊かな人格の形成に努める。   | ・年間一人10冊以上の読書を奨励する。<br>・社会問題に関心を持ち、学習と結びつける姿勢を育てる。   |      | ・図書館の本の貸し出し状況は1年次1人平均7冊、2年次平均2冊、3年次4冊である。<br>・授業における新聞の利用、生徒個人での閲覧はあるが、朝読書を推奨する雰囲気づくりが必要である。   | ・今以上にクラス単位で読書を推奨していく必要がある。<br>・図書委員による教養講演会の運営、県立図書館、市立図書館との新たな連携事業等への参加協力を通して読書喚起につなげたい。<br>・本や新聞の活用を授業や総合的な探究の時間に限定せず、朝の時間帯を活用しながら読む習慣づくりを行う。                  |         |  |
| 3 本校に対する社会的な期待と信頼に応え、伝統ある県内有数の進学校として進路指導の充実を図る。 |   |  |      |  |  |         |  |
| (1)   | 時代の変化を的確に捉え、一人ひとりの人生を豊かにする学力とともに持続可能な社会の創造に寄与する人材を育成する。                               | ・最新のセミナーや研究会などを紹介し、1,2年次生の参加を促す。   | B    | ・医進塾や地元大学進学促進セミナー、特に小学校教員体験セミナーには多数の参加者があった。   | ・今後もセミナーなどの案内を周知し、積極的な参加を呼びかける。  | B       | ・学校推薦型選抜や総合型選抜の拡大に伴い探究活動がますます重要になってくる。これまで以上の発表会やコンテストへの積極的な参加を期待したい。                                  |
| (2)   | 進路講演会や教養講演会など世界の平和や多様な文化、人間の生き方等について学ぶ機会を積極的に提供し、自分を知り、未来の社会と自らの生き方を考えるキャリア教育の授実を進める。 | ・ユネスコスクール加盟に向けて、国際平和・多様性・国際化・SDGs・STEAM等を取り入れた活動を展開する。<br>・教養講演会では、8割以上の生徒が満足するよう設定する。<br>・生徒向けの進路講演会について70%以上の高評価を得る。 |      | ・国際平和や多様性を考えるプログラムへの参加や中国高校生との交流を通して、国際理解を深めることができた。<br>・教養講演会後のアンケートではほぼ100%の生徒が満足の結果であり、キャリア教育、生き方や物事の考え方について参考になったという声が多かった。<br>・難関校・準難関校志望者集会や各年次の進路講話は、生徒にとって非常に良い刺激になっている。 | ・ユネスコに係る活動は、生徒個人では積極的なものも見られたが、学校全体の取り組みとしては物足りないため、他校の活動を参考にしながら、具体的な取り組みを検討する。<br>・教養講演会は、キャリア教育や生き方についてのアドバイスなど、大変有意義なものであるため、今後も、生徒が興味・関心が高い講演となるように講師の選定する。 |         | ・今後も、生徒個々の進路希望に寄り添った指導に加え、志望大学・学科や受験科目の変更に柔軟な対応をお願いしたい。  |
| (3)   | 年間計画に基づいた校内模試や外部模試等の意義と活用の指導を徹底するとともに、その結果について適切な分析と対策に努め、学力の向上を図る。                   | ・模試に向けて、準備⇒自己採点⇒振り返りのサイクル確立させ、中期目標シートに模試のCAPを記入させ、サイクルを確立できていない生徒への適切な助言を行う。   |      | ・月1回作成・配信の進路だよりにより、生徒の進路意識が高まり、ダイアリーや振り返りシートを利用してCAPを記入させた。  | ・課題テスト廃止による学力状況や習熟の推移を注視する。<br>・ダイアリー等への記録やマナビジョン入力の時間を確保し、習慣づけを図る。<br>・新教育課程運用に伴う課題の改善・克服のため適切な対応をする。   |         | ・国際理解、多様性やSDGs等のユネスコスクールの活動を推進してほしい。   |

|                                |   |  |   |  |  |   |  |
|--------------------------------|---|--|---|--|--|---|--|
| (4)                            | 先進校視察や授業力向上教育研究セミナー等に参加し、進路指導や生徒指導、授業力の一層の向上を図る。  | ・オンラインを含む視察やセミナーに参加し共有すべき情報を提供する。<br>・先進校訪問を行い、新教育課程における評価や、生徒の主体性を育む教育活動について研究する。 |   | ・オンラインを含む研修やセミナー等には積極的な参加があったが、夏の教員研修の希望者が例年より少なかった。<br>・先進校訪問により、学校推薦型選抜や総合型選抜に対応した校内組織や効果的な指導を含む3年間を見通した進路指導について研究できた。 | ・今後も積極的にセミナーや研修会に積極的に参加し指導力の向上を図る。   |   |  |
| (5)                            | 県教育委員会の「社会を生き抜く確かな学力育成事業」等を積極的に活用しながら、山形大学等地元大学への進学を促進するとともに、医学部医学科や東大・京大・東北大をはじめとする難関大学に向かうチャレンジ精神と発展的学力を育成する。 | ・医学部医学科や難関大にチャレンジできる生徒を全生徒の15%程度育成する。  |   | ・難関大指導法の一步として、嚶鳴合格プロジェクト(O GP)を実施しているが、難関大指導法の確立までには至っていない。  | ・難関大学合格に向けた推薦指導の在り方について、他校の取り組みを参考に検討する。<br>・難関大学に合格できる学力向上のための指導法について、低年次からの指導も含め方策をまとめ実践する。                        |   |  |
| 4 豊かな人間性と社会性、コミュニケーション力を育成する   |   |  |   |  |  |   |  |
| (1)                            | 在学時に成年になることを踏まえ、保護者等と連携・協力し、挨拶や清掃、マナーや情報モラル等の生活指導の充実を図り、笑顔と知性が輝き、自律性豊かな西高生を育成する。                                | ・社会の一員としての自覚と責任、他者との協調性、集団の目標達成に貢献する態度の育成を図る。<br>・社会的自立に向けたキャリア教育の視点に立つ活動を企画する。    | B | ・日々の学校生活の中は、他者を尊重し、集団としての目標達成に献身的であった。<br>・各種活動を計画的に取り組んだが、深まりのある振り返りが必要である。   | ・多くの生徒が自己有用感を感じられるよう、各種活動における役割分担について検討を深める。   |   | ・地域のボランティアとして、書道パフォーマンス等で盛り上げてもらい感謝する。今後も協力してほしい。                              |
| (2)                            | 校友会活動、学校行事、部活動、ボランティア等生徒の主体的な活動を通して、豊かな人間性と社会性、コミュニケーション力の育成に努める。   | ・校友会活動や部活動を中心に、生徒の主体的・協働的な活動を支援する。<br>・ボランティア等を通じて、自己や社会の在り方について考えを深める。            | B | ・生徒たちの自主的・自治的な活動により、各種行事を成功させた。<br>・部活動等において、全国大会出場など優れた成績が収められた。<br>・ボランティア活動には多数の生徒が参加したが、他生徒への実践の共有が必要である。            | ・行事の精選も視野に入れ、生徒たちが安全かつ安心して各種活動に打ち込める環境づくりに努める。<br>・ボランティア活動の様子や成果等の情報を生徒同士がお互いに共有できる環境をつくる。                          | B | ・あいさつや礼儀の指導は、学校ではなく家庭(保護者)が担うものであるため、日々指導する必要性を感じた。                            |
| (3)                            | 不登校や不適応について適切な対策を講じるとともに特別支援教育の充実を図る。   | ・情報を共有し、予防的対策に努める。<br>・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた指導を行う。                                   | B | ・長欠の生徒、SCや相談室登校など特別な支援が必要な生徒に対して、個に応じた対応が実践で来た。<br>・年次担任団を中心に、生徒・保護者に対して手厚く対応しており、改善傾向も見られる生徒もいる。                        | ・教員間の連携を密にするとともに、SCを活用しながら、多様化する生徒たちが学校生活を続け、自分の進路に向けて歩み進められるよう適切な対応をする。<br>・生徒理解の研修を継続し、生徒面談の在り方やきめ細やかな生徒支援体制を確立する。 |   |  |
| (4)                            | 本校の「学校いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの未然防止に努める。  | ・いじめの未然防止・早期発見に努める。<br>・いじめが発見された際は、迅速かつ組織的に対応するとともに、再発防止の措置を講じる。                  | B | ・担任や年次担任団の協力を得ながら、いじめアンケートやその後の細やかな面談を実施した。<br>・いじめ防止対策委員会を開催し、組織的な対応について確認できた。  | ・いじめアンケートの調査時期や方法、質問内容の説明の仕方等について改善を図る。<br>・いじめの未然防止に向け、SCの協力を得ながら組織的な体制づくりについてさらに検討を進める。                            |   |  |
| 5 生徒・教職員の心身の健康と安全教育・防災教育を推進する。 |   |  |   |  |  |   |  |
| (1)                            | 基本的な人権を尊重し、自分の存在や生き方と同時にあらゆる他者の尊厳を大切に「いのち」の教育を推進する。   | ・生徒と教職員が、自分と他者それぞれに保有する人権について互いに考える場を設けることで、安全・安心な学校づくりを着実に進める。                    |   | ・人権意識の高揚を直接の目的とする活動は直接実施できなかったが、諸活動を通じ、他者を尊重しようとする気持ちを育成することができた。  | ・SNSの利用等について、生徒や職員が深く考え、意見を言い合えるような踏み込んだ研修会を検討する。  |   | ・コロナ前の学校活動に戻り、先生方の業務量増加やの多忙化が課題となっている。やるべきこと(やらないこと)や業務の効率化について検討することが必要ではないか。 |
| (2)                            | さまざまな災害に備えた防災教育の充実を図る。  | ・災害に備え、年3回避難訓練を実施する。   |   | ・5月、7月、10月に予定通り避難訓練を実施し、防災教育の充実を図った。   | ・訓練時のみならず、日頃より防災意識の高揚を図る。<br>・避難訓練の課題等を踏まえ、避難経路の再検討を行う。  |   |  |
| (3)                            | 交通安全の意識を高め、生徒・教職員ともに交通事故の絶無に努める。  | ・交通事故発生件数0を目指す。  |   | ・今年度も自転車絡み交通事故が発生した。<br>・生活委員を十分に活用することができなかった。  | ・交通安全講話や登校指導等により、交通安全の意識を高め、交通事故数の縮減を図る。   |   |  |
| (4)                            | 不審者から生徒を守るために防犯教育と施設の整備充実を努める。警察や家庭と連携し、適切な情報の共有を行う。  | ・不審者対策を徹底し、生徒の身の安全を第一に図れるようにする。  | B | ・組織的な校内巡視が不十分であり、生徒の防犯意識を高める手立ての検討が必要である。  | ・生徒の安全・安心な学校生活を保障するため、万一の場合を具体的に想定し、職員間で対処方法について確認する。  | B |  |
| (5)                            | 教育公務員として綱紀の保持と、学校における働き方改革を推進し、社会人・家庭人としてライフ・ワーク・バランスのとれた生活に努める。  | ・休日の部活動指導について適切な計画を立て、休養が確実に取れるようにする。  |   | ・部活動の休養日の設定や活動時間は守られていたが、部活動指導を中心に、休日出勤等の負担の偏りが解消されていない。   | ・顧問配置や部活動の指導の在り方について、関係者による協議の場を設けるなどしながら、負担の平準化を模索する。   |   |  |
| (6)                            | 節電やごみ分別等環境問題について生徒の意識を一層高める。  | ・SDGsの理念に結び付けた活動に取り組む。   |   | ・ごみの分別は良好であった。<br>・冷房使用について、さらに節電意識を高める必要がある。  | ・環境美化の意識をさらに高める取り組みを継続する。<br>・節電については、校友会などと協力しながら徹底して意識させる。   |   |  |